

神戸市一般廃棄物処理基本計画改定に係る第2回専門部会 議 事 録

【開催概要】

日 時	平成27年3月16日（月）10時～12時10分
場 所	神戸市環境局研修会館

- 前回欠席委員の紹介（花田委員）
- 第1回専門部会の論点整理（参考資料1、参考資料2の説明）

【議事（1）市民・事業者の意識について】

- 事務局 （資料説明）資料1、資料2、資料3
- 中野部会長 ありがとうございます。膨大な量ですけれども、まず、ご報告のあった3つのアンケート結果に対してご質問があればお願いいたします。
- 藤原副部会長 家庭ごみのアンケート調査で問1、問2、問3と関心度調査ですが、問1を見ますと明らかに若い世代の関心度が低い、50代60代になってくると関心度が高くなっているとのことですが。それと1ページの回収率を見ると10代の回収率が結構低いと思われませんが。それでいくと10代で答えた人はどっちかというに関心度が高い人が答えたのだと思う。そうすると実態でいくともっと10代の方は関心度が低いのではないか、数から言うのですね。それについてどのように思われますか、また、どのように対応していかなければならないと思いますか。もしありましたら教えてください。
- 中野部会長 若い人に対する考えですが、よろしくをお願いします。
- 事務局 この結果を受けて、正直、少し衝撃的というとあれなんですけれども、この10年間環境教育ということで、小学生からごみの分別であったりですね、地球温暖化とか環境をテーマにした事業を取り組んできて今年で10年になったかなということですので、10代、20代というのはそういった教育を受けてきた世代だったということで前回よりも良くなるだろうというのを少し思っていたのですが、やはり、今回こういった関心が低いという結果になっています。これは我々もそのあたり環境教育が大事だということで、授業の中でさせていただいているのですけれども、やはり10代後半、20代というのが実際に教育を受ける頻度というのが、小中学校までが中心で、高校生、大学生になるとなかなかその機会も少ないのかなと思っています。あと、実際にごみを家庭で出したりとかそういった行動をとられる機会も10代後半から20代というのは少ないのかなというのが実感としても思います。ですから、いま、これに対するアクションといいますか施策は無いのですが、このあたりについての、手段についてのアプローチといいますか、働きかけというのが必要なかなと感じているところです。
- 花田委員 いまのことですが、7ページに10代はワケトンブックを参考にとというのが多くなっていますが、これはワケトンブックを使って環境教育をしているということなのででしょうか。

○事務局 ワケトブックはどちらかというと、ご家庭の中で分別ルールはこれを使ってや
ってくださいということで、啓発用はそれぞれ別の教材を使っています。

○花田委員 ワケトンがちゃんと届いているんだなというのがここで感じたこととございま
した。それから私は 20 代というのが問題だなと全体を見て感じております。たと
えば、3 ページの間 1 からいきなりなんですけれども、どの程度関心を持っている
かという設問で 20 代は関心が無いというところですね。たとえばですけれども 27
ページを見ていただきますと、上の方ですが排出ルールの分かりやすさの向上を求
めている比率ですね、灰色のところですが、これが結構多いといういことと、次の
ページにごみの情報提供に満足していないんですね。やってないのに満足していな
いということなんです。そのあたりのことも、とても丁寧に第 1 回の議事録を作
って下さったので、よく理解できたわけですが、議事録の中にたとえば新規住民に
対してとか、集合住宅の住民に対して啓発や働きかけをどうするのかというご意見
がありますが、新規住民とか集合住宅とかのあたりに 20 代というのがかかってく
るかなという感じがあるので、ここに対して何かやってらっしゃるのかお聞きした
いですし、やっていらっしゃらないとするならば、また少し働きかけを考えていか
れると、効果が大きいと思うのですが、何かやってらっしゃいますか。

○中野部会長 20 代の若者にですね。

○事務局 若者ということでしたら、一つは大学新入生の寮に入ってる人への分別ルールの
説明であるとか、あとは、賃貸住宅ですと不動産会社の方にお問い合わせをして、分別、
ワケトブックの配布でありますとかそういったことをお願いしている状況があ
ります。

○中野部会長 学生については私の大学にも説明に来ていただきましたが、寮に入るとか一人暮
らしの人に非常に詳しく説明していただいている。前回のご意見で新規住民とかの
ルール違反の問題があるとおっしゃってたのは、マンションがすごく増えてきてそ
のマンションの新規入居者に対してルールを守らない人が多いので、それをなんと
かすべきではとのご意見があったと思うのですが、奈良山委員のご意見でしたでし
ょうか。何かアンケート調査の結果と比べて。

○奈良山委員 市全般にいえることですが、マンションの管理者、管理人ですかね、それと住
民との間に十分意思の疎通がない。だから我々は、後藤委員は自治会の会長をなさ
っているが、各自治会は今マンションの方のごみ出しに非常に問題があると。問題
の一つはマンションがごみ箱を作っていないところもたくさんあると。また、管理人
と住んでる人との意思疎通が十分ないためにごみの問題についてスムーズな流れ
ができていないように思う。神戸市の場合は今おそらく 8 割くらいがマンションだ
と思う。マンションについていろいろ考えていただいたほうが、マンションという
ものを通じて考えていただいたらいいのではと感じました。

○中野部会長 先ほど、藤原委員の方から 10 代は回収率も低いし、ごみを排出するとか分別す
るとか担い手の人が少ないので、このような結果になるのは無理もないかもしれな
いが、20 代は担い手が多いので、20 代に対する対策があったらいいのではないか。
特にマンションに入る新規住民で若い世代にどうやってつなげるか。そういったこ
とですね。

○花田委員 不動産会社のことを聞いて、それは一つの方法だなと思いました。

- 藤原副部長　　今回は、年代で整理されているが、他の情報として家族構成や居住区でもクロス分析するとよりクリアになるのではと思います。
- 中野部会長　　クロスで問題をクリアにしたほうがいいのではとのご意見。前回、高齢者対策が非常に重要ではないかとの意見いただいていたし、今回のアンケートの 26 ページでも今後の必要な施策として高齢者や自力でごみを出せない人への支援が重要であるとの意見が多くなっているが、前回、高齢者対策についてご意見いただきました。これから高齢者社会を迎えるに当たって、このところ非常に重要ですよね。他の事例ですが奈良県桜井市にニュータウンができたときに、一戸建てで階段付がかっこいいので、階段つきの家が高く売れて、今度ごみを出すときに階段を下りることができないので、高齢化社会と階段とは密接な関係があつて、それが切実な問題で、収集の方が階段を上って取りに行かないと、出すこともできない家が増えていることを伺った。高齢者やごみ出しができない人への支援につきまして何か、現実にかつていうことが起こつてるとか、かつていう手を打つべきとかありましたらお願いします。
- 奈良山委員　　神戸市はいま老人会の育成を非常に力をいれてやつています。老人会を通じて、もうすこしかつていう問題について考えになつたいいのでは、いまのところ、自治会、婦人会、商店会ですけれども、神戸市の場合は他の市は知らないですが老人会を重視した施策をやつておられると思うので、老人会の中ではごみ出しのことはあんまり出していないのではと思いますけれど。
- 中野部会長　　このことに関して何か事務局でありましたら。
- 事務局　　高齢者向けのサービスになるんですが、今現在直営の収集では特別な収集というのをやつていて、これは介護認定があるとかごみ出しを手伝う方がいらつしやらないということで、事業所ごとに面談して、本市はステーション収集が基本ですが、各戸に取りに行つていてはやつております。ただ、全世帯といひますか高齢の方に全部カバーは効率の点がございまして、できていない状況にあります。
- 中野部会長　　アンケート調査ではかゆいところに手が届かないといひるか、無難な結果になつてしまつていてあるかもしれませんが、生ごみの水切り、指定袋、容器包装プラスチックの分別につきまして何か。前回玉田委員は生ごみの水切りでご意見があつたと思ひますが。
- 玉田委員　　ごみの減量をするには、まず水切り、もうみなさんだいぶされているので、雑がみの収集で減量が図れるのではとお話したので、それを重点的に私たちはこれからしようをしております。ちよつと前に戻りますけど、アンケート結果で若い方の生活状況がそれぞれ違ふといひことで、古着とかリユース、リサイクルといひのをしておりますよね。そういった意味で、関心ないといひのは地域に密着してないといひのが原因ではないかと思ひますが。自分たちが関心あるのは結果利用してありますよね。そういうところを考へていかねばならないといひことと、私たち地域でやつていけるけれど、会報を出して、毎月資源回収していただいたら、とれだけのトン数をしました、金額はこれですといひふうで、毎月出しております。自分たちが出したのがどの程度になつているか。といひのも感心度を深めてもらえるのではないかといひことと、イベントのときにみなさん、世代いろんな方がこられて、模擬店で食べたごみを分別するようにごみ当番といひのを作つていて、はしはこちら、コッ

プはこちら、食べ残しはこちらというふうに、啓発をいろんな地域でするといろんな年代の人が関心を持つのではないかと思います。それが実施している状況です。

○中野部会長 地域との密着度が関心を左右するのではないかというご意見、若い人に対する密着ということでイベントは結構つかえるかもしれないですね。

○玉田委員 ちゃんと環境を学んでいる学生が、そういうのを仕掛けてくれましてね、灘区などはそうしてやっております。

○中野部会長 そうですね。若い人は婦人会とかそういうところに所属していないので、なかなか地域との活動と密着度は少ないですが、イベント等でしたら若い人も参加しやすい。

○玉田委員 少しは啓発につながると思います。

○中野部会長 事業系につきましてもいかがでしょうか。時間が無くて申し訳ないですが。

○寺下委員 4ページの表2のところですが、50cm以下のプラスチックは可燃ごみとなり、事業者としては出しやすくなったという情報ですが、結構知られていないことにつきまして、なかなか一般家庭に比べて事業者のところではごみ業者からの情報伝達になってしまうというのがあるので、非常にいまのやりかたの限界が出ているのかなと見ています。クロス集計見ても区分変更を知らなかったという事業者さんも、大規模事業者であっても収集委託業者が押さえていると、そこでも十分情報が回っていないということです。このあたりはやり方として収集業者を通じてしかならないと思うが、収集業者を通じてどのように情報を提供していくのかということは今一度検討が必要なのかなと思ったりしています。あと、事業者側からするとどんな風にリサイクルすればいいか情報が欲しい。なかなか神戸市の立場からすると民間の事業者のどこにもっていけば良いといったことが立場上言いにくいことがあるかとも思います。小さい事業者はやり方がわからないというところが多いと思うので、そのあたりは公平性もありながら、色々な形で小さい事業者がリサイクルに出せるように、相手先をどう情報提供するかが考えるところかなと思って見させていただきました。

○中野部会長 小規模事業者さんへの情報提供ですね。リサイクルをどうすればいいかという。それについて、現在何かされているのでしょうか。

○事務局 小規模の事業者は確かに難しいところがあります。リサイクルに関しては特にコスト高、食品リサイクル等につきましても少し焼却するほうが安いとかありまして、なかなか小規模でまとまって出ないところに関して分かっているけど行動するには少ししんどいなというのがいつも感じていることです。事例がこのようなものがあるとか、こういう風にリサイクルすればいいですというものは去年くらいにパンフレットをつくりまして、多少弁解めいたところもあるんですけど、収集業者さん、この方たちは窓口、入り口まで行かれますので、そこを通じてそういった情報を出してるとということと、少し私どもでなんとかならないかなと思っているのは、この前も議論されましたけど、入居している建物の管理者がうちの窓口になってしまっている場合にはなかなか実際にごみを毎日出している方には伝わりにくい。これは少し届きにくいなあと感じています。その辺について業者さんをむしろ相談相手として考えてくださいということは、常日頃からいろんな電話の問い合わせを受けた時に言っております、地道にそのあたりをやっていくことと、いい事例を紹介

していくみたいなことを。それと小規模な方である程度出して、リサイクルに前向きになれるなというところは段ボールとか少量でも持っていつてくれる、少ないけれど出せばある程度まとまった量になるもの、これに関しては何か細工ができないかなとは日ごろから考えているところです。

○花田委員 2 ページですが、大規模事業所かどうか「わからない」という回答が 1/3 あるんですね。「わからない」がどうしてこんなにたくさんなのか、理由がわかれば教えていただきたい。自分が大規模な指定建築物であることがわからないという場合が多いということなのでしょうか。

○事務局 対象になっていないとそもそもその定義に関心をお持ちでないのかなと。制度としてアンケートの時にそもそもこういう制度ですと添えておけばもう少し理解はしたかと思えますけれども。制度自体良く分からないという誤解、特に今回小規模にたくさん出しましたので、そもそも制度自体も分かっておられないのかなと。

○花田委員 「わからない」の回答者は小規模の方が多いと考えていいのでしょうか。大規模の指定を受けている方は大規模とお答えになっていると考えると、わからないというのは中小、大規模以外の方がわからないと答えている場合が多いのではないかと考えてよろしいでしょうか。

○事務局 そうですね、ここではクロス集計はしていないのですけれど、そのように理解はしております。

○花田委員 もう一つだけ 13 ページの間 7 の「今後大切だと思われる施策」の問いに「業種別の減量方法を示したマニュアルの配布」が 3 番目に多いのですが、私が存じ上げているのが東京都かな、業種別の出し方というのをネットで公開されています。業種によっては何年か前なんですけれどもそういうのを参考にされるとか、こういうのがありますよとおっしゃるとかされるのが、一番お安い方法かもしれませんし、そういう風にされるのがいいと思いますので、またご覧ください。

○事務局 先ほど大規模事業者の方が、自分たちが大規模と分かっているのかご質問があったと思いますが、直接的に答えになっているかどうかですが、2 ページを見ていただいたら、下の方の大規模事業所の中で、わからない 32%というのがありますけれど、これについては、いろいろな業者さんが入っているようなビルの場合ですね、自分たちがそのビルに居て、そのビルが対象になっているかどうかは店子さんはなかなか分からないというのがありますので、そういったところも少し反映されているのかなと思うところです。大規模事業者の方は私ども 2,500 棟を把握してまして、その方達とはやりとりを年間何回かやっていますので、その方達は自分たちがそうであると基本的に認識されていると理解しております。

○花田委員 ビルとしては自覚があるのだけれども、中に入っている方は分からないということを示されているわけですね。

○事務局 そういう事例もあるのかなと思います。

○花田委員 1/3 もあるのでちょっと無視できない数字なので、それはそれで一つの問題かなと。おっしゃったビルの管理者が対象になって、入居の事業者になかなか届かないということとつながるところがあるかなと思いますので、またご検討いただけたらと思います。

○中野部会長 建物の管理者への調整、管理者からから情報をどう伝えていくとか、その当た

りの細かいところを今後ご検討お願いしたいと思います。

時間の関係で次に行かせていただきたいと思います。それでは、アンケート結果や前回説明のあった内容を踏まえ現行計画のまとめに入りたいと思います。

次の議題(2)現行(第4次)計画の課題について資料4について事務局から説明をお願いいたします。

【議事(2)現行(第4次)計画の課題について】

- 事務局 (資料説明) 資料4、資料4-2の説明
- ・第1回専門部会で質問があった、ごみの発生量と排出収集量の差について、資料4、2ページ目の概念図で説明
- 中野部会長 一つ一つ大きな内容で、時間が無く恐縮なんです。前回、ごみ排出量と回収量との差についてご意見いただきました、小島委員さんさきほどのご説明でよろしいでしょうか。
- 小島委員 はい。ありがとうございます。
- 中野部会長 そうしましたら、課題の内容を全部出していただくのは大変だと思うのですが、何かここでご意見ございますでしょうか
- 花田委員 家庭系ごみの有料化など経済的誘導策が盛り込まれることを検討されるということが書かれているのですが、有料化で問題になってくるのはごみの不法投棄とか周辺自治体にごみが逃げることだと思うのです。今回資料6ということで一般廃棄物計画のキーワード一覧ということで全国分を出していただけていますが、ごみも北海道までは逃げないと思うので、神戸市の周りの自治体ですね、有料化の状況がわかるのであれば教えていただけますか。今すぐでなければ次回にでも教えていただければと思います。
- 中野部会長 家庭系について有料化というのも前面に出していらっしゃいますか
- 事務局 前回ご議論いただいて、ごみの量のリバウンドがあればとのお話でした。少なくとも減っているので、いまその状況にはないので、すぐの導入はないと思っております。
- 中野部会長 ただ、より具体的な情報をじわじわ出していく必要はあるということですね。
- 事務局 周辺の状況はあらためてお出しします。
- 中野部会長 事業系ごみにつきましても経済的な誘導策についても、高くつくかどうかの問題もあるので、経済的な必要もあれば。
- 藤原副部会長 6ページ~7ページですが、大きく変わって平成24年度から25年度にかけて大きく変わったのは排出ルール違反が減ったということですね。でこれは非常に市民の方の燃えるごみ、燃えないごみその認知が上がった、実効したということですね。これできるのであれば家のごみももっと認知度を上げて習慣性がつけばもっともってできるのではないかとこのように思っています。と思うのは資源、紙ということなんですけど、紙のリサイクルをされる業者の方の中にはですね、紙は全部リサイクルできるんだというぐらいのことをおっしゃる方もいらっしゃるんですけど、そうなってくると、資源ごみの紙のこういうものはリサイクル出来ますよってじゃなくて、紙はほとんどリサイクルでますと、ただこういうものはリサイクル出来ないで、燃えるごみとして出してくださいという言い方に切り替えてですね、紙というものはリサイクルするのが普通なんだよと、いっそ、発想の転換をしたほうが

いいのではないかと思います。

○中野部会長　　こういうものが雑がみですというよりは、この紙はリサイクルできませんといったほうは早いのではないかと。それについていかがですか。

○事務局　　そうですね、これは紙ですという説明をしていますので、ちょっといま逆の発想といえますか、確かに量を出していただくにはそのほうが良いと思います。適当でないかもしれませんが、紙を行政回収していないこともあって、分別ルール上は紙を燃えるごみに入れていると一応ルール通りですということになっているので、そこもあるのかなと。いま先生おっしゃられた視点での見方もあるのかなと思いました。

○中野部会長　　ここは、どんどん技術も進んでできるようになると、よりわかりやすい情報提供ということになると、これはだめといったほうが早いかもしれませんね。

それと協力率が高いので、もう少し資源化量を増やすためにも協力を求めるともつとできるのではないかというのはあるかもしれませんね。

○藤原副部会長　　アンケート調査に関連して、いったいどういうところに問題があるのか、見ていたんですけど、27 ページです、家庭系の方ですね、家庭系のさっきいろいろと議論されたところですが、それで 27 ページの年代の図を見てみますとね、これを平均化してみるとちょっとあぶないなと思いました。といいますのは 26 ページの高齢化でごみ出しできない人へ支援することなんかはたぶんアンケートで答えられている方が高齢の人が多いのですね、40、50、60 これからどうなるか心配という人が結構多いので、こういう答えの割合が多くなってきているのではないかと思います。そこで、年代別にどういう考えを持っているのかということをして 27 ページの上の図で見るならば、たとえばグレーの左から 3 番目、排出ルールのわかりやすさの向上ということですが、これって、上のほうが年代の若いほうがそれを重視していて、下の方がしている人が少なくなっている。あくまで、経験によるものだと思ってまして、やはり若い人はそういう経験もない、排出ルールもよくわかっていない、わかるようにしてほしいとの希望だと思う。でそれとか一番左の青ですね、生活する中での発生抑制や再使用が日常できるような環境教育の充実、これも若い世代のほうが強くでていきますね。高齢の世代は弱く出ている。それから先ほどの高齢者の方も 40、50、60 代が太くなってますし、それからその下のごみ減量やリサイクルが進むような具体的な情報や啓発の充実、これはどっちかという若いよりも 30、40 代世代が多くなっているというようにこの情報には、それともう一つある 2 番目ですね、古紙、古布それと小形家電ですか、これも若い世代は少なくて高齢の世代は太くなっている。というふうに、世代によって見方が違っているということがあります。これがリサイクルなんかに影響しているのではないか、情報がなくてリサイクルなんかうまくできないというような、年代によってですね、情報の提供が不十分であるということがあって、資源化がうまくすすんでいない。じゃどうするかというと年代に合わせたリサイクルの指導の仕方そういうものを考えていかないといけないのではないかと。そういうことが読めるのではないかと思います。

○中野部会長　　回答率が 60 代で 72%という特徴があるので、その辺の方々の意見が代表されてしまうのですが、全体を見ると、世代に合わせた指導のしかたがあるのではないかとのご意見なんです、やはり 10、20 代の方が、たとえばあの世代はなにかとス

マホの利用なんです、そのようなやり方を時代に合わせて方法を考えるのがいいのではないかとということです。

この専門部会のまとめとしまして、家庭系については環境教育の推進、情報の積極的な発信、たとえばワケトン等、世代に合わせたきっかけをつくりやすい情報発信、あと、資料4です、6ページ目をご覧くださいと湿重量比とはいえ、台所ごみは大きな部分を示しておりますけど、燃えるごみで、事業系も厨芥類が結構大きな割合をしめてますね。生ごみの減量、資源できる紙、古着、古布のリサイクルの実施そういうふうな、出しやすさの向上などではないか。容器包装プラスチックの分別の推進促進がもっと必要ではないか。指定袋制度の検討、最後のほうにご説明いただきましたけど、水銀規制などの新しい法規制への対応、高齢化社会への対応、将来的な施策が必要になってくるのではないかと。

事業系としましては、ルールブックの周知、ルールを徹底していただく、減量リサイクルの推進、食品のリサイクル、搬入手数料や有料指定袋料金のあり方など、経済的誘導策をもう少し細かく等のことが、今後検討していくべき課題として挙げられると思います。

では(3)基本理念・目標値検討に移りたいと思います。資料5 ごみ量の将来推計について、資料6 第5次計画の基本理念検討について事務局からご説明をお願いします。

【議事(3) 基本理念・目標値検討について】

○事務局

(資料説明) 資料5、資料6の説明

○中野部会長

今のご説明は今後の議論のベースとしてお話していただいたということで、いまのところは具体的に議論しなくてもいいということですね。ただいまの説明にご質問がありましたら。

○小島委員

最終処分場の残余年数はどれくらいだったでしょうか。

○事務局

最終処分場は3つありまして、2つは市のほうで管理しています、布施畑、淡河最終処分場で今のペースでいくと30年以上です。それと、焼却灰などはフェニックスに入れてますが、計画の期間がございまして、こちらの方が平成39年度までが計画期間になっていたかと思います。こちらの方はその計画によってきますので、その期間内ということです。

○中野部会長

先ほど、藤原委員さんとかのご意見によりますと、キーワード一覧というところがあるのですが、このようなぼんやりとした抽象的なキーワードというよりは、世代に合わせたとか、何かこうアンケートからわかるような、具体的な施策に一步入れるような、高齢者社会に向けてとか、なにかこう循環型社会に展開していくための理念みたいなものは十分やってきたので、いままで足らなかったことに一步踏み込めるようなことを言わないと先ほどの資料5の図をみますと、達成できない、できないと非常に暗い先行きが見込まれるということで、先ほどまでのご説明で、やはり資源化量に非常に問題があるとかのことがあるんで、そこへの具体策として何か今までと違うような、実際の行動にたとえば若い世代に向けたとか、何かご意見を頂いた感じがするんですが、何か今後につきまして基本理念とか基本方針、重点項目減量目標について何かご意見ないでしょうか。

○小島委員

私先ほど最終処分場のことを聞いたんですが、一番大事なそこかなと思いま

す。何のために循環型とか言ったり、こういうことをやってきているかというのは、間違いなく最終処分場の延命を図るためだと思いますし、次、また新しい処分場を作るのは絶対難しいと思いますから、いかにこれを延命していくかのためにいまやっているはずなので、それを少し目標値のところに入れてもいいのかなって思ったりもしました。30年を倍の60年持たせようと、子供たちの世代がまだ使える状態にするのが、私たち現役の責任じゃないかと思ったり、そういうことを言ってもいいのかなと思ったり。それから、先ほど先生おっしゃったように言いつくされているというか、マンネリ感がどうしても出てきているのは確かだと思います。それは若年世代が環境意識が低下しているのが、全国的なトレンドなので、何故なのかなというのがあるんです。たとえば温暖化で夏場なんか暑く感じるのになんでか知らないけど環境のトレンドとかだんだん低下してきているので、ここでもう一度、神戸でのあたりまえ水準を醸成するためにも見直して、分別精度も買い物意識も更に高めて、これはそのためにやっているんだということをもう一度確認したり、中に入れていくべきかなと思ったり。それからひまわりの高齢者対策はほんとに素晴らしいですし、これはたぶんあんまりよそではやってない政策だと思いますし、これを目玉にしても逆にいいのかなと、私たち神戸が目指しているのは高齢者も住みやすい街だし、廃棄物もきちんとやっているんだというのがすごくいいなと感じましたので、そのあたりを盛り込んだような未来を策定するのはいかがかなと提案させていただきます。

○中野部会長

30年を60年というのはすごく分かりやすいですね。そういうピンとくるようなことを言わないと特に若い人は動かないんじゃないかなと思いますね。それと、さきほどのご意見のようにある種の疲労感ってありますよね、節電とかごみ量削減とかあんまり長く言われ続けられてきたので、もうちょっと聞きたくないんだというのがあるので、新しいキャッチフレーズで立ち向かったほうが、よろしいかなといった感じはありますね。30年を60年というのは具体的な策であると。理解しやすいです。

○寺下委員

いまの話につながるところもありますが、グラフを見ていて25年度の時点で発生量はもう達成しているのだけれど、その他達成できていないのをどう見るかなというのがある。計画を作った時点の社会情勢があるんですけども、特にここに書いてます資源化量のところが、ひとつはもともとの資源の消費量自身が減らせるような商品が出てきているということと、紙等について神戸市さん以外のところのリサイクルが進んでいるよと。神戸市さんで把握できていないところがどこまであるかということなんですけど、そこまで考えていくと非常に大変な作業になってしまいます。そんなところを資源化量といったところを参考値としてはいいのだけれど、果たして今後、目標値的に管理していくのかどうかを考えていかなければならないのかなと。最終的にごみの処分地が無くなっていくととんでもないことになるよということであれば、最後のごみ処理量というところにターゲットを絞っていきながら、処理量を減らすためにどうリサイクルを進めていくのかという施策はやっていかなければならないと思うのですけれども、目標値的に資源化量を追いかどうか考えてみるべきかなと感じましたので、意見とさせていただきます。

○中野部会長

資源化量そのものではなくて、量そのものにこだわるのではなくて、最終的なタ

ーゲットをちゃんと定める、このプロセス、考え方をもう少し整理し直したほうがいいのではないかということですね。

○後藤委員

ごみの問題ですけど、最近容器包装プラスチック私の方ずっと月曜日にやって取っておりまして、はじめは3つ4つが今は20、30と集まって持っていったるんです。それが今後ハーバーランドは高層化、住宅がだんだん増加、栄町にいっぱい増えましてね、そのために、ごみの日にちを月曜日から水曜日に変えてくれといわれたんです。それは4月1日からなるんですけれどね。曜日をできるだけ変えずに今まで容器包装がはじめ2つ3つ出したら、今は30、40たまって、定着したときに今度は日にちが変わるわけです、だから家庭ごみと合う日は日にちが変わらないんですが、資金になりますからね、できるだけ協力したいですけど、自治会でも役員会でもやかましく言いまして、最近では40代、50代の人でなく最低でも60代から上なんですよね。そういうときに、仮にほかす（捨てる）ときに、ここにほったら（捨てたら）だめだ、事故あったらこまりますからね、そういうこと言わないようにしているんですが、日にちだけはできるだけね、ハーバーランドとかどんどん出来ましたからね、ごみの収集がどうしてもできないから日にちを変えるわけですから、それをできるだけそのままいくようにこれからお願いしたいと思うんです。

○中野部会長

一回ついた習慣ってなかなか変えるのは難しいですものね。こちらの地区は決まっているのですか。

○事務局

そうです。新年度から。

○中野部会長

止むを得ない事情があって、変えざるを得ないのですね。

○後藤委員

納得をさせていただいてるんです。でも、しばらくは月曜日でも持ってくると思いますけどね。よそからどんどん入ってきた人が多いのでね、高齢化で亡くなった後で入ってきました、いままで居る人はいいんですけど新しく入った人はそういうのは関係なし、以前の場所でそういうこと分かっているとと思うんですけど、新しく変わってきたらそういう方がおられる。

○中野部会長

当事者の方のご苦労が分かりますね。おっしゃっていることよく分かるんですが、高齢化社会の一つの対策としてあまり変更が多いとなかなかついていけないこともあるので。そういうこともね、止むを得ない事情もあるのでしょうか、そういったことも考える必要がある。

○黒坂委員

高齢化社会の問題ですが、私、他市のごみ屋敷の関係の審議会をさせていただいておりますが、非常にごみ屋敷になる度合いも分別の仕方が分からなくて、だんだんたまって行って、本人たちは出したいのにごみ屋敷になるという事例が結構あってですね、その際に結局、後でごみ屋敷対策に補助金を出してということになるとよけいに高額になるので、そのあたりの対策を広くやってらっしゃるようなんですが、今後もっと通常の方々もご健康であってもなかなか出しに行くのが辛くなってくる方々の年代に関してはですね、どうしたらいいのかという案はないのですが、そういったあたりが今後の課題かなと思います。あと、たとえば、市民のアンケート調査の42ページあたりに色んな資源化に関する意見におもしろいものがあり、見させていただいてるんですが、神戸市さんは持ち去り条例というのはあるのでしょうか。あるんですね。ただ、まだ持ち去りがあるということが書いてあったり、

不況のときは持ち去らないが好景気の場合は持ち去りがあるみたいなことも聞いてますし、あと、資源化に関するご意見の中で、42ページの12番ですね、これは今回の議論のたとえば次の計画、一般廃棄物処理基本計画は包括的な基本理念を書いてしまうことが多いので、なかなか具体的なことを書くことができないですけども、将来的な課題としては12番のようなおもしろい、ポイントが貯まってごみ袋と換えられるような施策にすると、もっと若い世代、子育て世代が色々な資源を持って行って、金銭化するのではなく、ポイントとごみ袋程度と交換するとかですね、若い世代を巻き込むことがもしかしたらできるのかなと思いついて聞いていました。こちらの課題の中で5ページのところで家庭系ごみの有料化という話が先ほど出ていたのですけれど、経済的誘導策、環境保全に資してということになるんですけれども、規制的手法を厳格にすると先ほどいったように隣の市に持っていかか起きかねない。芦屋市は未だ何も指定袋すらない状況ですので、すぐ隣の道路で芦屋市民になってしまう地域でそんなことが起きかねないとお聞きしていたとおりなんですけど、もちろんこういう政策も大事なんですけど、飴と鞭ではないんですけど、ポイント制のようなものとか、表彰、うまくやっている地域の表彰、情動的な手法、あるいは誘導的なちょっとした褒賞的な手法というのが規制的手法と組み合わせてですね、将来的な、今回、じゃあ一般廃棄物処理基本計画にどう組み込むか、たぶん組み込めないと思うんですけど、将来的な課題としてはプラスをあげる、インセンティブをあげるという手法が今後は必要なのかなと感じました。

○中野部会長

インセンティブについてですが、若い人は本当にポイントが好きですよ。何かのお得感が無いとだめですよ。

○黒坂委員

そんなにお得でなくてもいいんですけど、ほんの少しでもあれば。

○中野部会長

神戸市はごみ屋敷についてはいかがですか。何か実態がありますか。

○事務局

今は条例まではできていないですけども、市内で数件、保健福祉局が中心になって把握しているところです。ケースがいろいろ、高齢者の方の原因によるものもございますし、それ以外のケースもあるかに聞いていますが。そのあたり中で横断的に検討しようかという状況です。

○中野部会長

ちょうど時間となりましたが、この膨大な内容の中すべてを議論できてないと思いますので、また、是非、意見を述べるペーパーがありますので、FAX などでお送りいただければと思います。では、本日皆様方からいただいたご意見を基に家庭系ごみ事業系のごみにいて具体的な施策を検討していきたいと思つています。

以上)